

## 事後評価結果（平成17年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課

担当課長名：西村 泰弘

<b>事業名</b>	一般国道335号 <small>はまこたぬか</small> 浜古多糠改良	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 北海道開発局
<b>起終点</b>	自：北海道標津郡標津町字古多糠 至：北海道標津郡標津町字古多糠	<b>延長</b>	1.9 km		

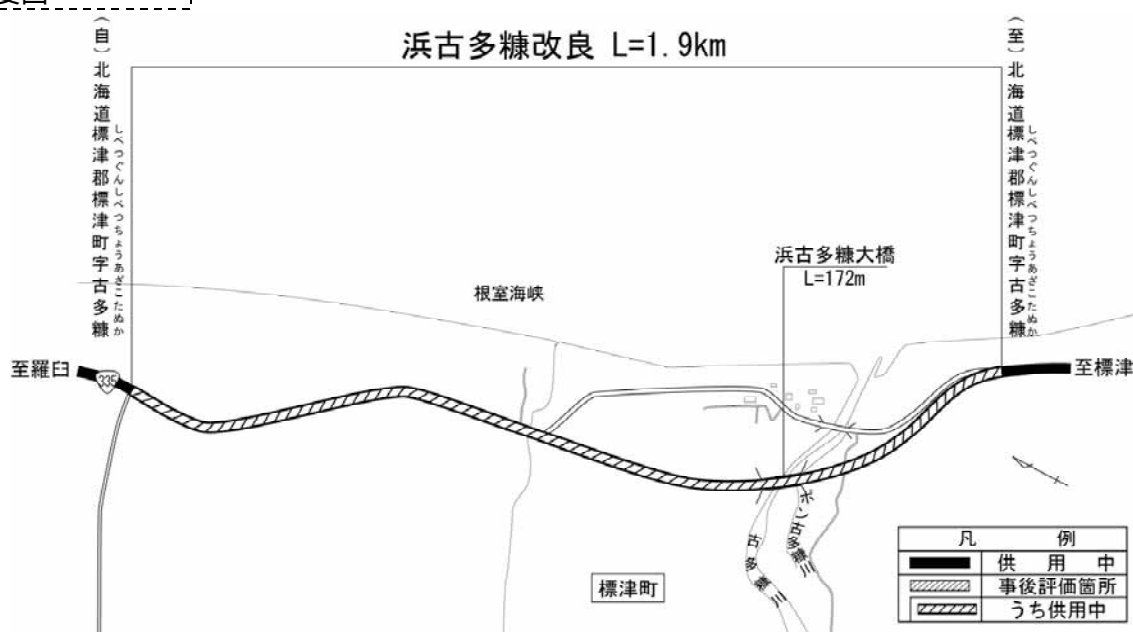
**事業概要**

一般国道335号は、羅臼町を起点とし標津町に至る延長約4.2kmの幹線道路である。  
このうち、浜古多糠改良は、標津町字古多糠に位置する延長1.9kmの事業である。

**事業の目的・必要性**

浜古多糠改良は、交通安全の確保、冬期交通障害の解消、物流の効率化及び主要な観光地や高次医療施設へのアクセス向上などに寄与するものである。

**事業概要図**



<b>事業の 効果等</b>	<b>事業期間</b>	事業化年度： H7年度 都市計画決定： - 年度	用地着手： H9年度 工事着手： H9年度	供用年： (当初) - / H13 (暫定/完成) (実績) - / H12	変動： 0.9倍
	<b>事業費</b>	計画時 (名目値) - / 14.0億円 (暫定/完成) (実績値) - / 13.6億円	実績 (名目値) - / 16.3億円 (暫定/完成) (実績値) - / 16.0億円		変動： 1.2倍
	<b>交通量</b> (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	実績 (暫定/完成)	- / 2,651台/日	変動： - %
	<b>旅行速度向上</b> (供用前現道 当該路線)	37.5 60.0 km/h (供用前(旧道) H17年度 (供用後年次) H17年度)	<b>交通事故減少</b> (供用前現道 供用後現道)	38.0 13.2件/億台キロ (供用直前年次) H6~H8の平均値 (供用後年次) H13~H15の平均値	
<b>費用対効果 分析結果 (事後)</b>	B / C : 1.0	<b>総費用</b> : 26 億円 (事業費 : 21 億円 維持管理費 : 4 億円)	<b>総便益</b> : 27 億円 (走行時間短縮便益 : 26 億円 走行経費減少便益 : 0 億円 交通事故減少便益 : 0 億円)	<b>基準年</b> : H17年	
<b>事業遅延によるコスト増</b>	<b>費用増加額</b> : - 億円	<b>便益減少額</b> : - 億円			
<b>事業遅延の理由</b>					

**客観的評価指標に対応する事後評価項目**

線形不良区間の解消等による安全性の向上

・当該区間の整備により、急カーブ・急勾配・狭小幅員が解消されたことで、安全性が向上した。

【事故率の変化】 供用前：38.0件/億台km      供用後：13.2件/億台km

	<p>主要な観光地へのアクセスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業の整備により、知床国立公園など羅臼・知床方面の観光地へのアクセスが向上した。</li> </ul> <p>【「道の駅」知床らうすの入込客数の変化】 供用直後(H12):10.2万人 供用後(H16):15万人</p> <p>冬期交通障害区間の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法面勾配を緩くした防雪切土の整備を行ったことにより、冬期交通障害による通行止め時間が減少した。</li> </ul> <p>【冬期交通障害による通行止め時間の変化】 供用前(H9~H11):13時間 供用後(H12~H16)0時間</p> <p>他6項目について効果の発現が見られる</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価、対象外事業である</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>人口・産業等の社会経済情勢の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標津町の人口については、事業化当時7,087人(H7国勢調査) 供用後6,298人(H12国勢調査)に減少している。</li> <li>・標津町の農業産出額は、事業化当時734千万円(H5) 供用後891千万円(H15)に増加している。</li> <li>・羅臼町の漁獲高は、事業化当時11,168百万円(H10) 供用後12,257百万円(H12)に増加している。</li> <li>・浜古多糠改良の周辺町(中標津町、標津町、羅臼町)における観光入込客数は、事業化当時1,812千人(H6) 供用後1,683千人(H16)と横ばい傾向にあるが、平成17年7月に知床半島周辺が世界自然遺産に登録されたことから、今後増加することが予想される。</li> </ul>
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>事業の効果が発現しており、再事後評価の必要性はない。</p> <p>また、改善措置の必要性もない。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>特に、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない</p>
特記事項	<p>特になし</p>

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。